

私は、女学校…つまり、高校までは神奈川県横浜でした。

昔は、名門とも言われた学園なんです。

父親の仕事が変わり、函館に移り、もう長い歳月が過ぎてしまいました。

昭和のワクワクする時代、次から次へと新しいものが生まれ、発展していく目まぐるしい時代を、私達はキャアキャア言いながら過ごしていた様に思います。

あの頃、何もなくても、いつも一緒にいた仲間十数人も、現在では、五名を残すのみとなってしまいました。

同窓会の会報と共に、必ず、その五名の中の二人か三人が便りを入れてくれます。

同窓会も、何度か仲間だけでやったのですが、去年は

「次は横浜で、残ったものが集まって、あの頃の通学路やよく散歩した所を訪ねて…」なんて話していましたが、それも叶わぬこととなりました。

今年は会えるのか、来年なのか、来年もダメなのか。

何ともわからない状況に、五人はガッカリしています。

先に天国に逝った仲間達を含めて、私達の記憶にある

街も、道路も、世の中があまりに変化して、

「昨今はつまらないねエ」と電話で話しています。

「誰もが思っている以上に、記憶の中の風景が遠くへ遠くへと行っちゃったよねエ、という共通の思いを抱いています。

残った五名は、幸い、まだ元気に過ごしています。

先に逝った七人の仲間と、天国で同窓会をするのには、まだちょっと時間がありそうです。

皆、待っていてね。

リクエスト曲

へ 川の流れるように

／

美空ひばり

く